

平成 18 年 6 月の地震活動及び火山活動について

[地震活動]

6 月 12 日に大分県中部の深さ 146km で M6.2 の地震が発生し、最大震度 5 弱を観測しました。津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度 1 以上が観測された地震の回数は 102 回、日本及びその周辺における M 4 以上の地震の回数は 71 回でした。

国土地理院の GPS 観測結果では、東海地域及びその周辺における、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動は、最近では停滞しているように見えます。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

[火山活動]

噴火が観測されたのは、桜島及び諏訪之瀬島でした。

桜島では、4 日から、従来の山頂火口に加え、南岳東側斜面の昭和火口で新たな噴火が発生し、12 日に火山活動度レベルを 2 から 3 に引き上げました。その後も、火山性地震や微動がやや多く、火山活動は活発な状態です。昭和火口で噴火があった場合には、噴石の飛散範囲が従来の南岳山頂火口とは異なりますので、注意してください。

諏訪之瀬島では小規模な噴火がたびたび発生しました。火山活動度レベルは 3 です。

浅間山では、火山性地震および微動の発生回数ならびに火山ガスの放出量がやや多く、火山活動はやや活発な状態が続いています。火山活動度レベルは 2 です。

三宅島では、二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は依然として続いており、火山活動はやや活発な状態が続いています。今後も火山ガスに対する警戒が必要です。

なお、雌阿寒岳では、3 月 21 日の噴火以降活発であった噴煙活動は次第に低下し、現在はやや活発な状態となっています。

日本の主な火山活動の概況は別紙 3 のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙 4 のとおりです。

注 1：国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 18 年 5 月～平成 18 年 6 月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2006/goudou0710.htm>

注 2：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 3：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編) 6月号(7月末頃に気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注 4：平成 18 年 7 月の地震活動及び火山活動については、平成 18 年 8 月 8 日に発表の予定です。

2006年6月の主な地震活動^{注1)}

番号	月日	時分	震央地名	深さ(km)	M	最大震度	備考/コメント
1	6月3日	0時48分	福井県嶺南地方	7	4.1	3	
2	6月12日	5時01分	大分県中部	146	6.2	5弱	フィリピン海プレート内で発生した地震
3	6月13日	11時40分	十勝支庁中部	86	4.7	4	太平洋プレート内で発生した地震
4	6月20日	6時47分	千葉県北西部	66	4.6	3	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震
5	6月28日	9時40分	千葉県北西部	112	4.1	3	太平洋プレート内で発生した地震

注1)「主な地震活動」とは 陸域でM4.0以上かつ震度3以上の地震、 海域でM5.0以上かつ震度3以上の地震、M6.0以上の地震、 以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。

その他の活動^{注2)}

月日	時分	震央地名	深さ(km)	M	最大震度	備考/コメント
7月1日	8時28分	宮城県沖	40	5.3	3	太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
7月6日	2時08分	岩手県沖	36	5.4	3	太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
7月6日	6時11分	宮城県南部	11	4.3	4	
7月6日	15時17分	茨城県南部	50	4.0	3	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震

注2)「その他の活動」とは、注1)の主な地震活動の基準に該当する地震で2006年7月中に発生したものの。

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

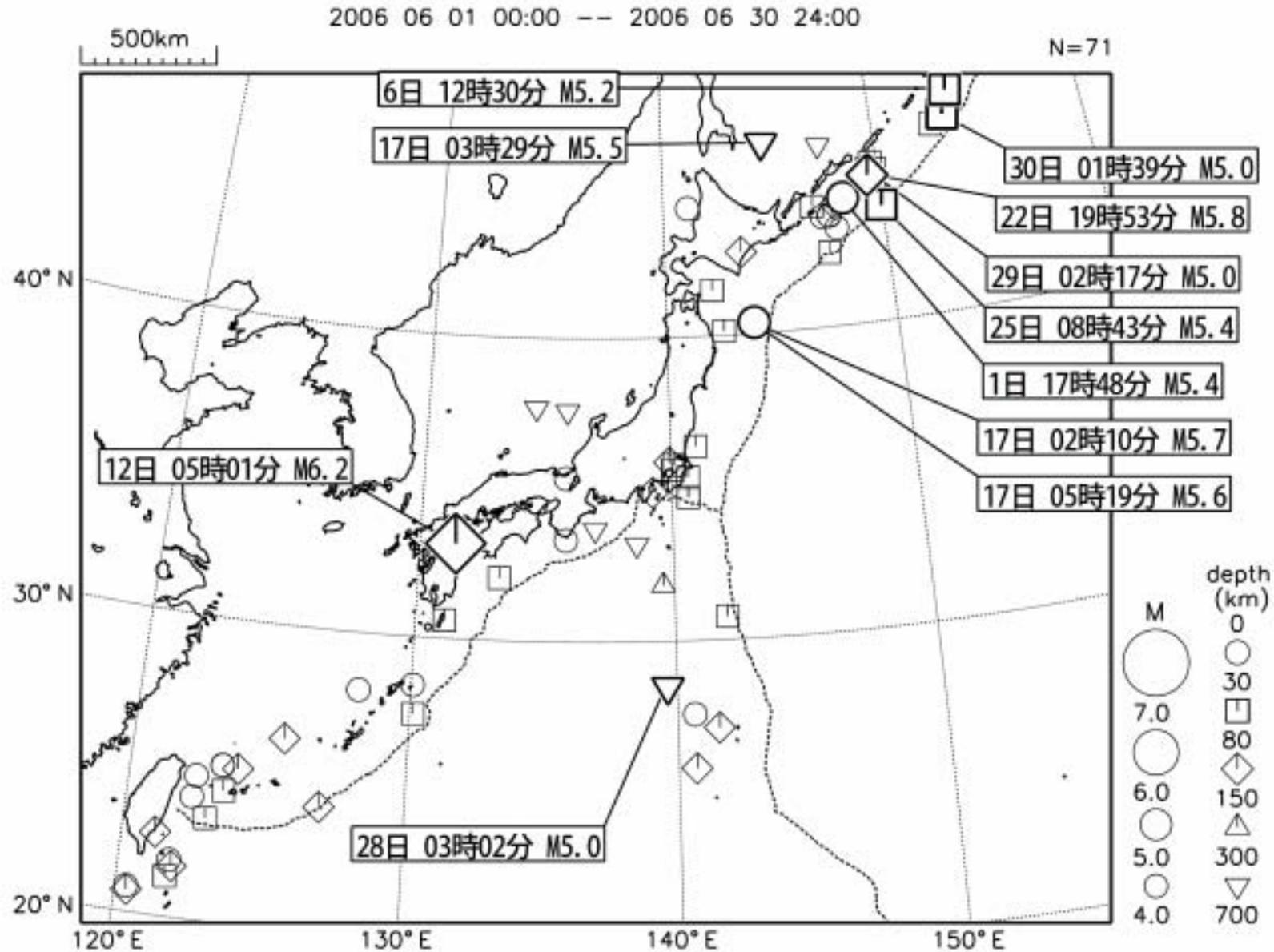
2006年6月26日に気象庁において第242回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを公表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺における、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動は、最近では停滞しているように見えます。

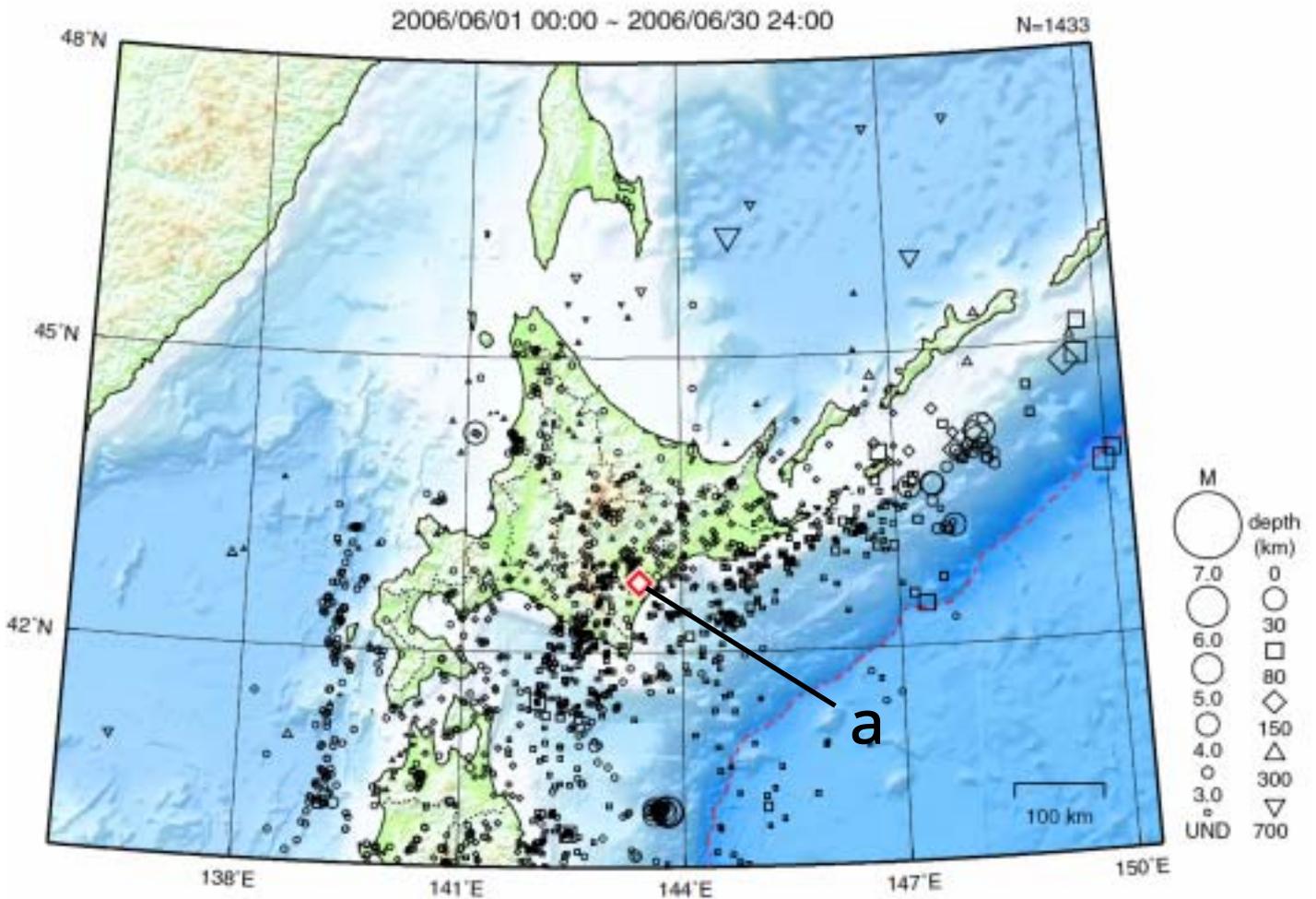
2006年6月の全国の地震活動（マグニチュード4.0以上）



大分県中部で6月12日にM6.2の地震があった。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

北海道地方



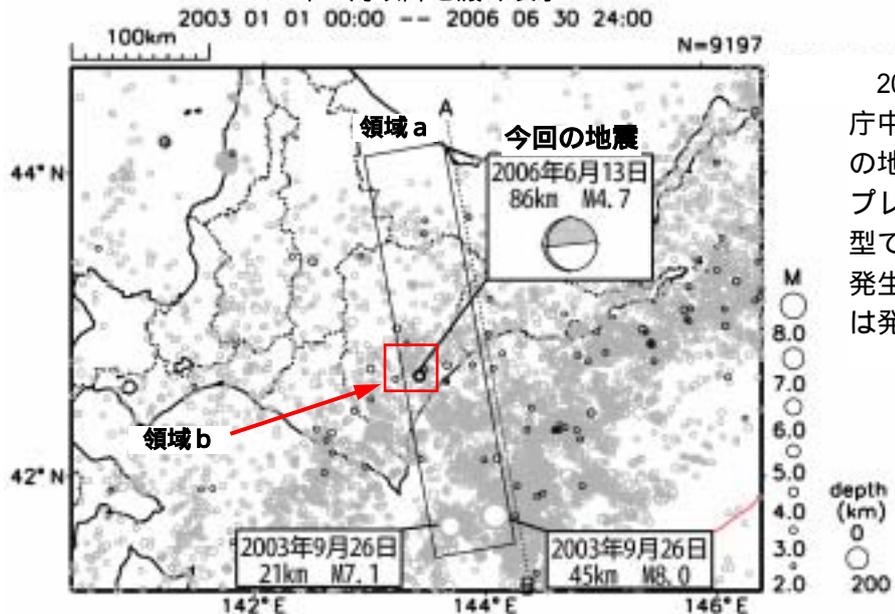
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

a) 6月13日に十勝支庁中部で M4.7 (最大震度4) の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上、陸域で M4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

6月13日 十勝支庁中部の地震

A 震央分布図 (2003年以降、M 2.0)
2006年6月以降を濃く表示



2006年6月13日11時40分に十勝支庁中部の深さ86kmでM4.7(最大震度4)の地震が発生した。発震機構は、太平洋プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型で、沈み込む太平洋プレートの内部で発生した地震と考えられる。なお、余震は発生していない。

この周辺では、「平成15年(2003年)十勝沖地震」の発生以後、地震活動が活発化した地域があったが、領域bではその傾向は見られない。(A)

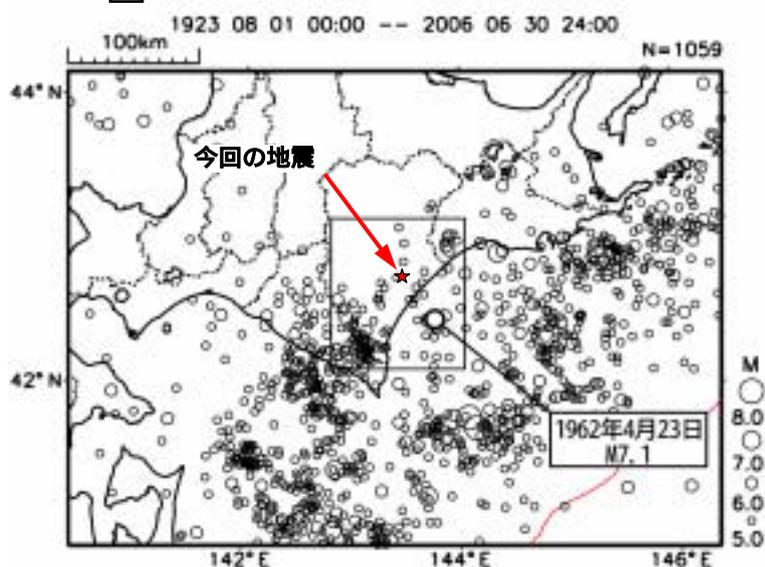
領域a内の断面図 (A - B 投影)



1997年10月以降の領域b内の地震活動経過図、回数積算図 (100km以浅)

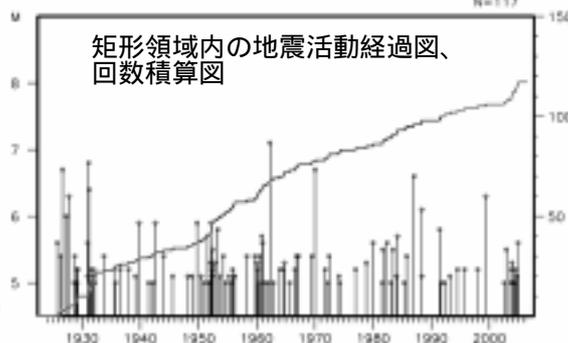


B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



1923年8月以降、この周辺ではM6クラスの地震は度々発生しているが、M7を超える地震は1962年に発生したM7.1の地震のみとなっている。(B)

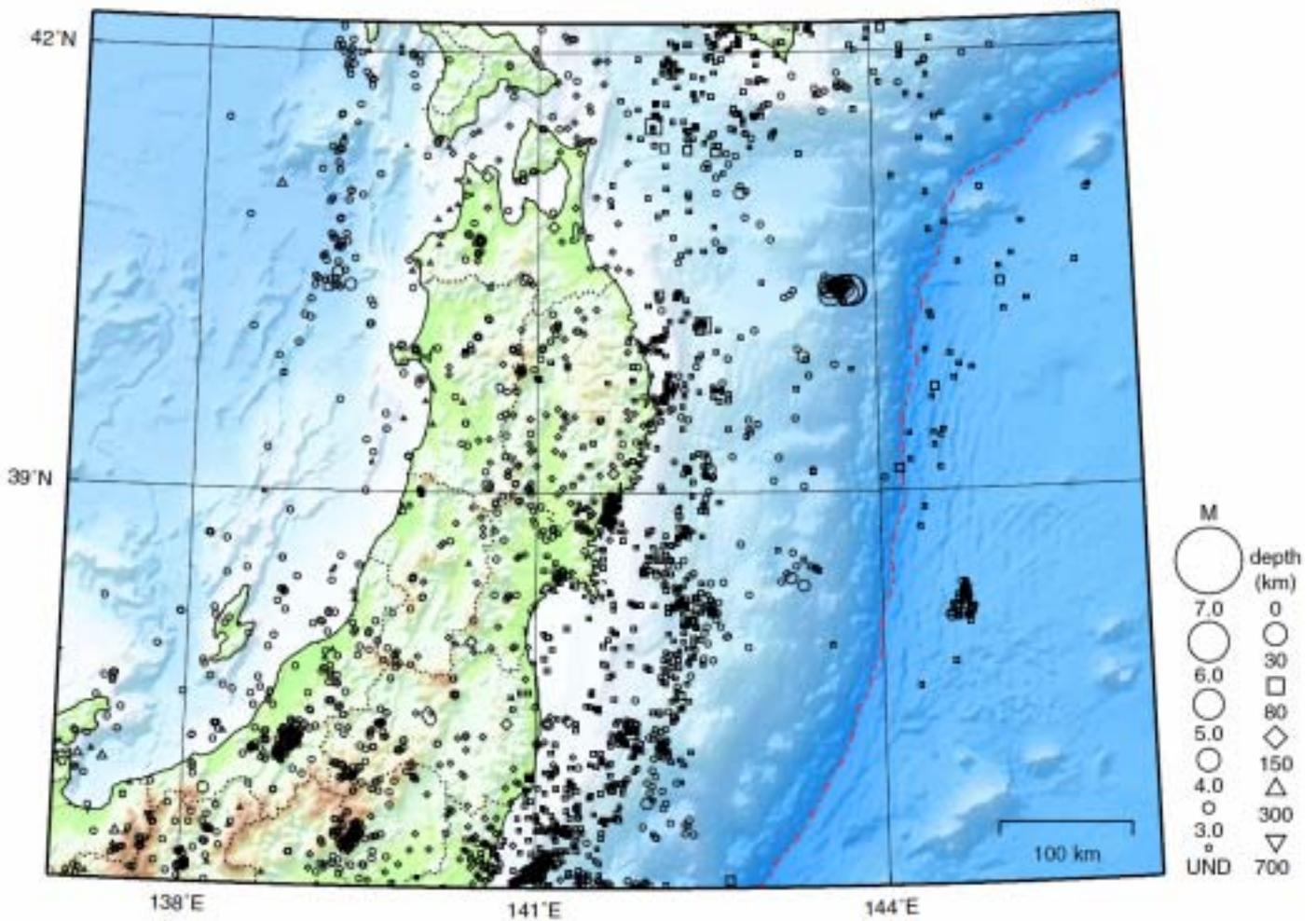
1923年8月以降の領域b内の地震活動経過図、回数積算図



東北地方

2006/06/01 00:00 ~ 2006/06/30 24:00

N=2567



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

特に目立った活動はなかった。

(上記期間外)

7月1日に宮城県沖で M5.3 (最大震度3) の地震があった。

7月6日に岩手県沖で M5.4 (最大震度3) の地震があった。

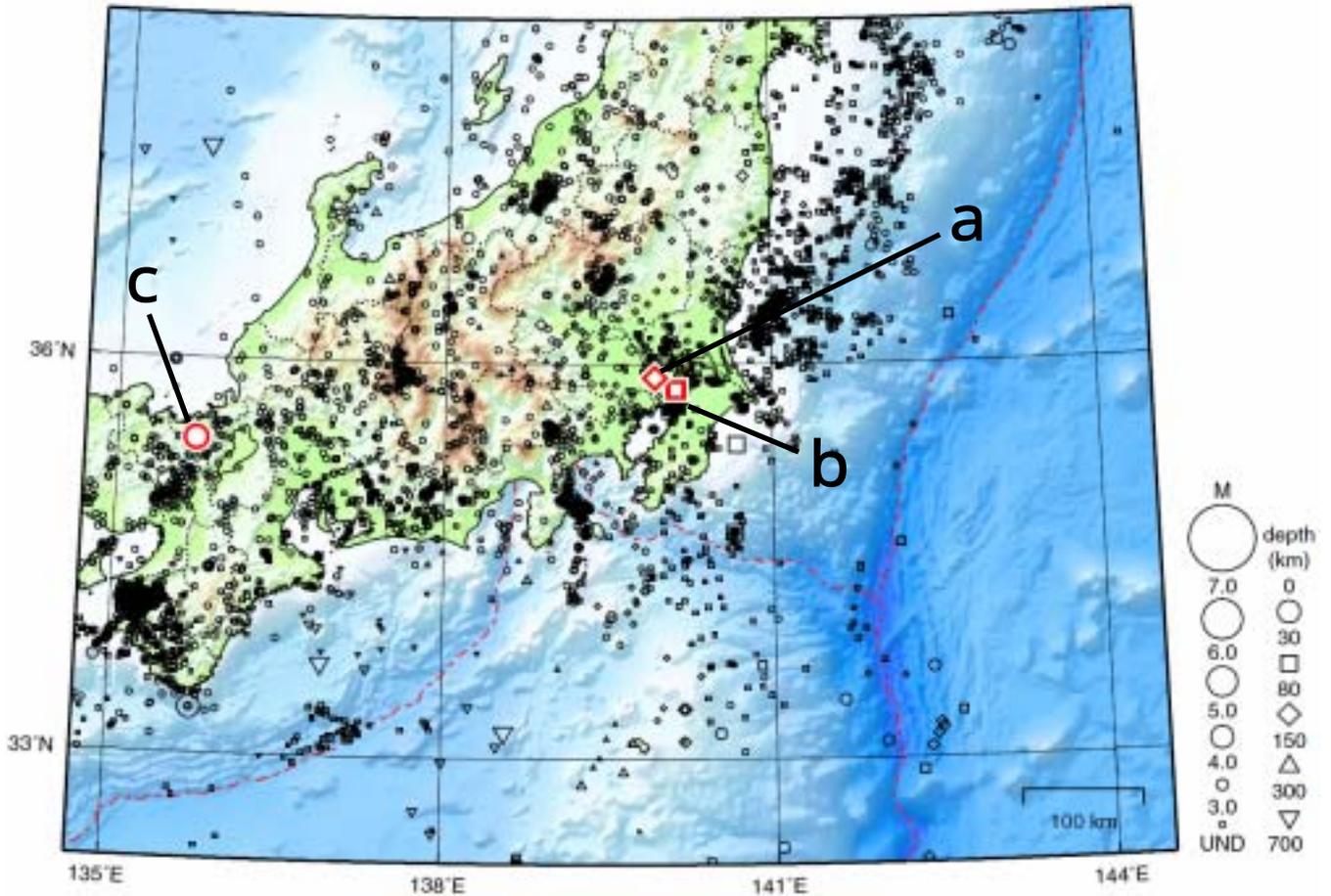
7月6日に宮城県南部で M4.3 (最大震度4) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

関東・中部地方

2006/06/01 00:00 ~ 2006/06/30 24:00

N=4796



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

- a) 6月28日に千葉県北西部で M4.1 (最大震度3) の地震があった。
- b) 6月20日に千葉県北西部で M4.6 (最大震度3) の地震があった。
- c) 6月3日に福井県嶺南地方で M4.1 (最大震度3) の地震があった。

(上記期間外)

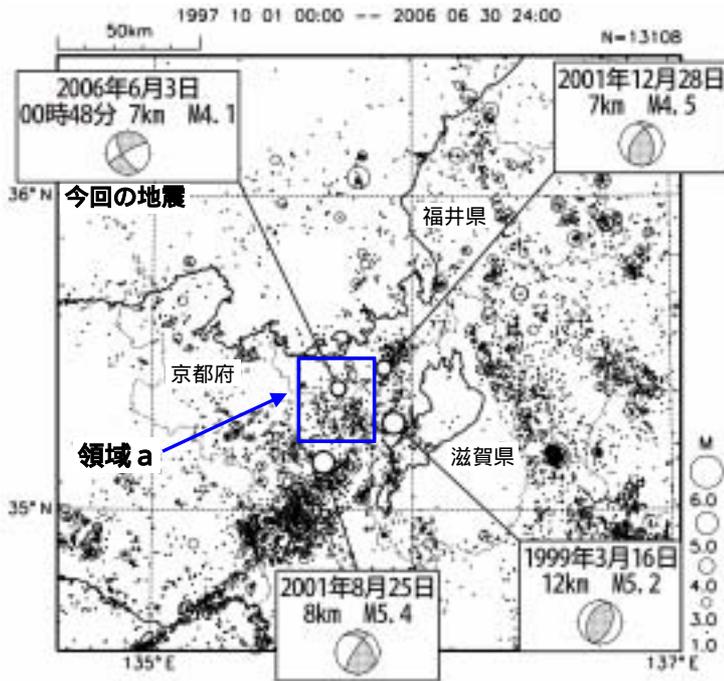
7月6日に茨城県南部で M4.0 (最大震度3) の地震があった。

[]内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

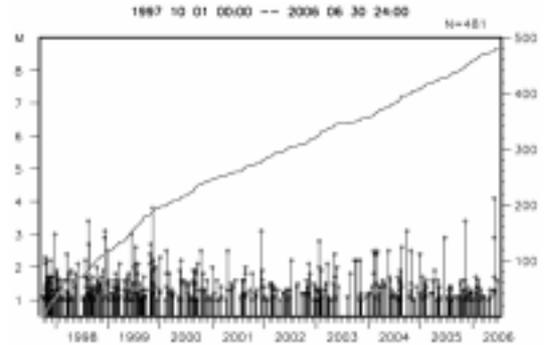
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

6月3日 福井県嶺南地方の地震

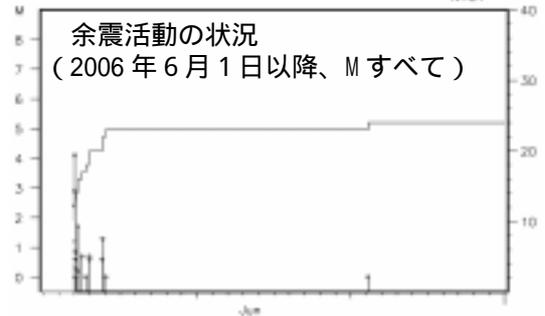
A 震央分布図 (1997年10月以降、M 1.0)



領域a内の地震活動経過図、回数積算図



2006年6月1日以降、Mすべて



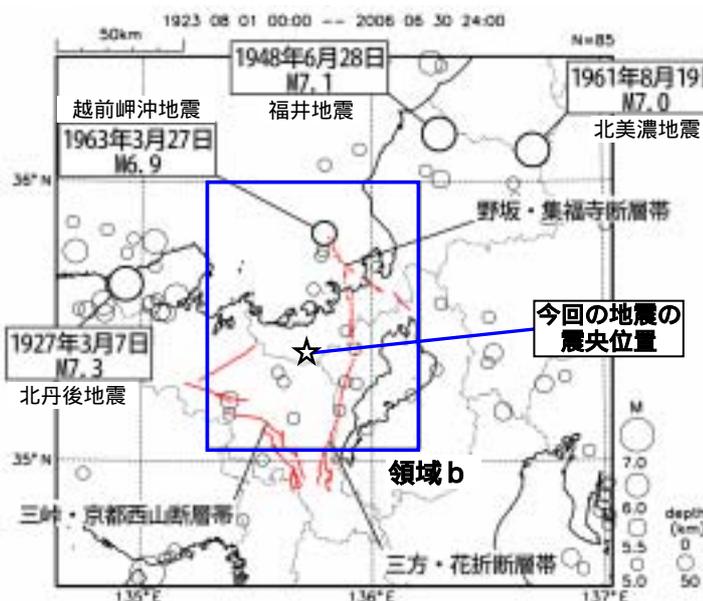
発震機構分布図 (P軸表示) (1997年10月以降、M 3.0)



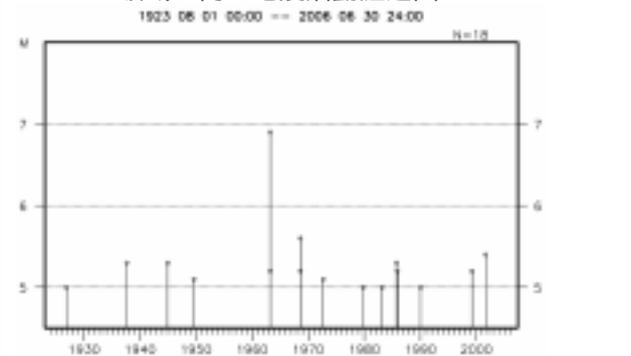
2006年6月3日00時48分に福井県嶺南地方の深さ7kmでM4.1(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、圧力軸の方向はこの付近で発生する地震によく見られるものである。余震活動は2日程でほぼ収まった。(**A**)

1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、M5.0以上の地震が時々発生しているが、M6.0以上の地震は、1963年3月27日のM6.9の地震(最大震度5、「越前岬沖地震」)のみである。(**B**)

B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)

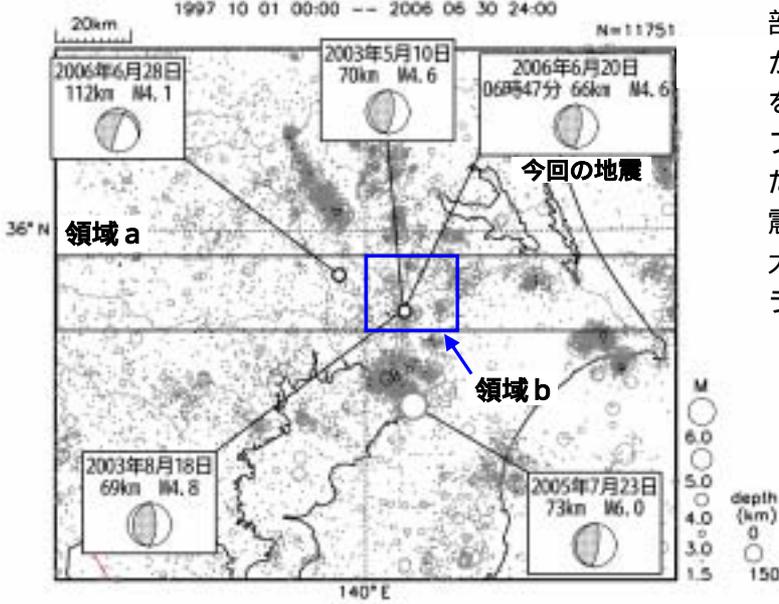


領域b内の地震活動経過図



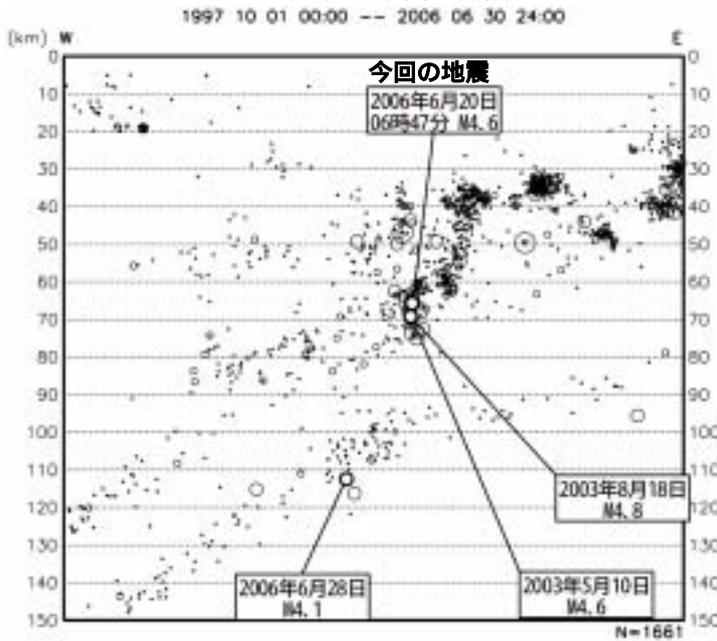
6月20日 千葉県北西部の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、M 1.5)

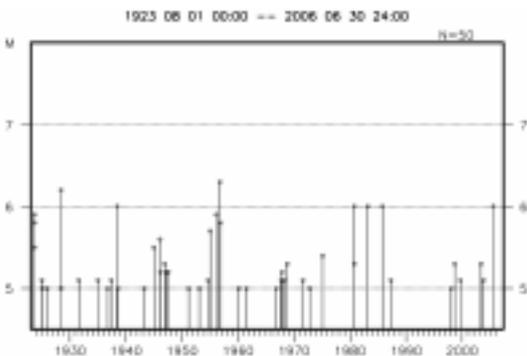


[2006年6月1日以降の活動を濃く表示している]

領域a内の東西断面図

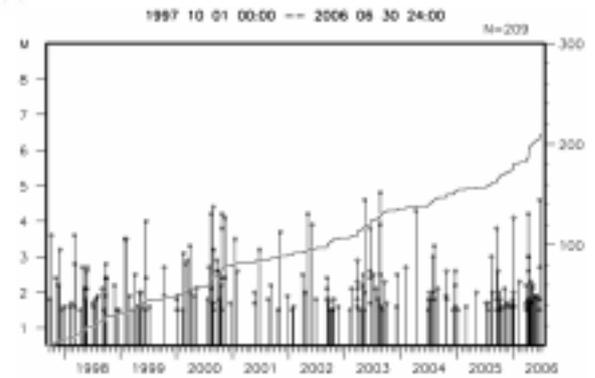


領域c内の地震活動経過図

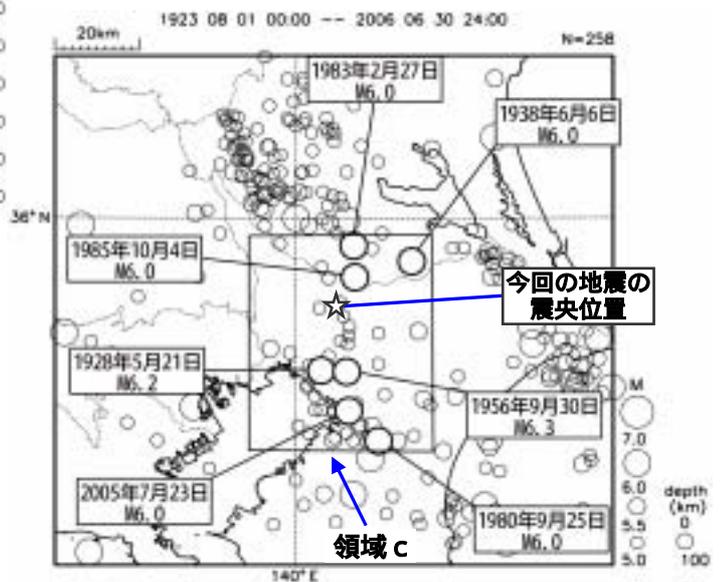


2006年6月20日06時47分に千葉県北西部の深さ66kmでM4.6(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震であると考えられる。今回の地震の震源付近では、2003年8月18日にM4.8(最大震度3)の地震が発生するなど、M4.0クラスの地震が度々発生している。(A)

領域b内の地震活動経過図、回数積算図 (深さ55km~80km)



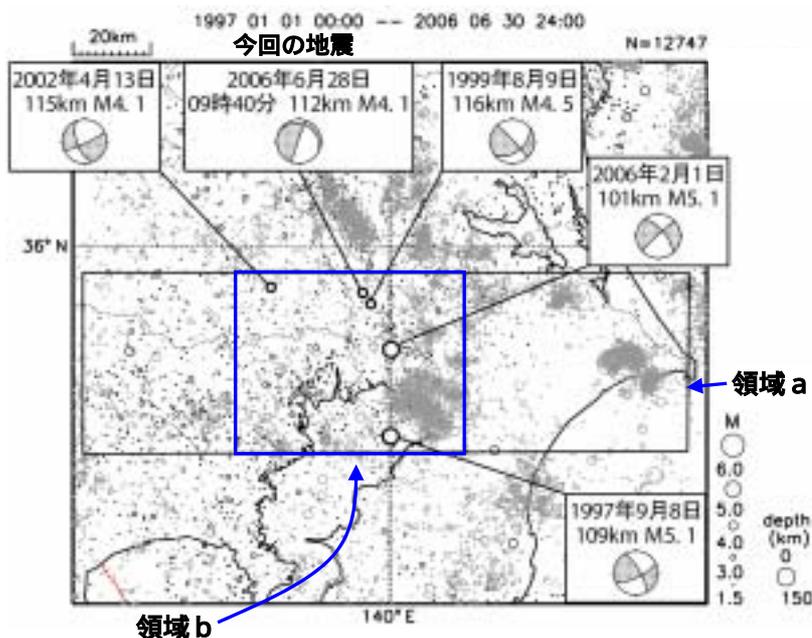
B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



1923年8月以降、今回の地震の震央付近ではM6.0以上の地震が7回観測されている。(B)

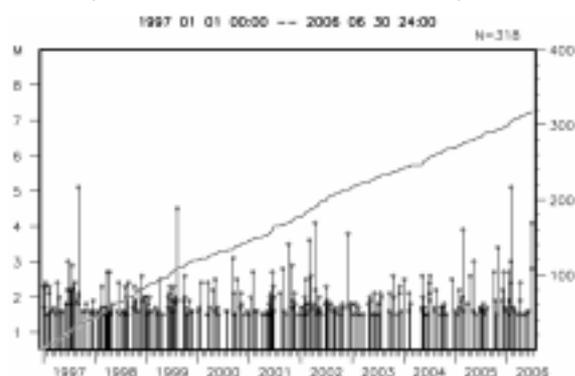
6月28日 千葉県北西部の地震

A 震央分布図（1997年1月以降、M 1.5）
（太平洋プレート二重地震面の下面の地震を濃く表示）

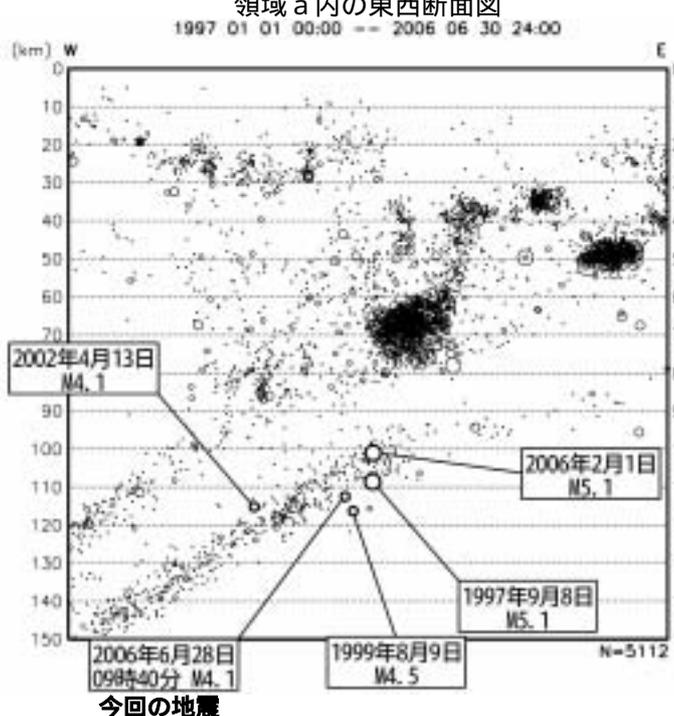


2006年6月28日09時40分に千葉県北西部の深さ112kmでM4.1(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ型であり、太平洋プレート内(二重地震面の下面)で発生した地震である。余震は観測されていない。付近の二重地震面の下面の地震としては、最近では2006年2月1日にM5.1(最大震度4)の地震が発生している。(A)

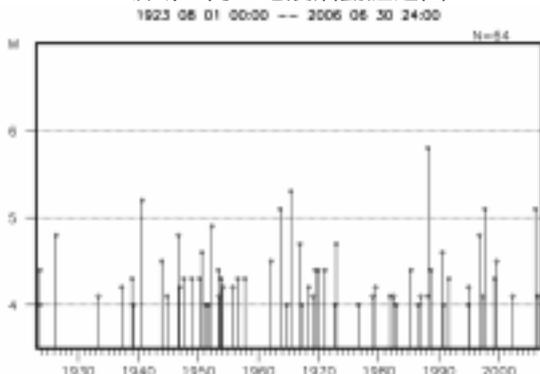
領域b内の地震活動経過図、回数積算図
(二重地震面の下面の地震のみ)



領域a内の東西断面図



領域c内の地震活動経過図

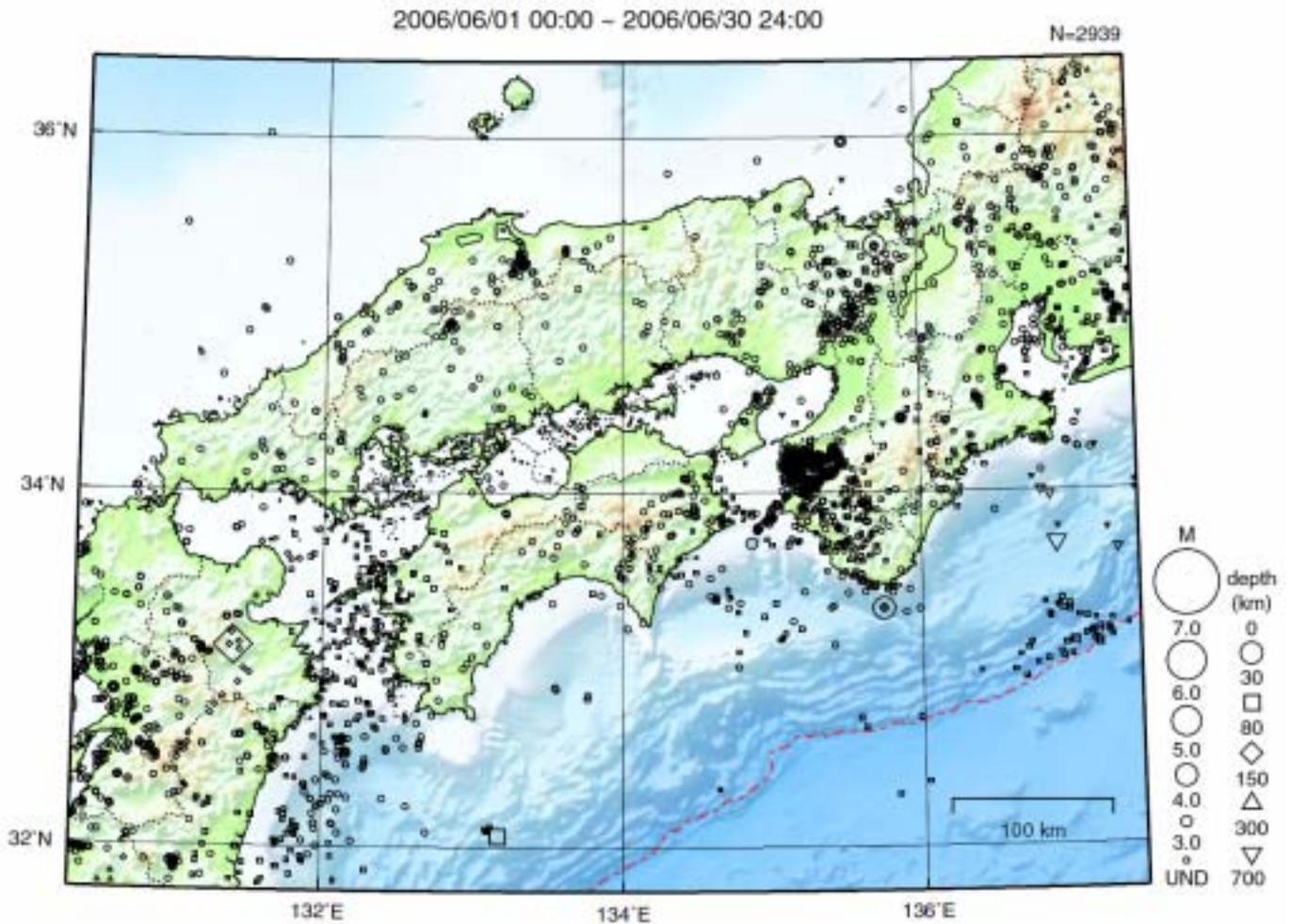


B 震央分布図
(1923年8月以降、深さ90~150km、M 4.0)



1923年8月以降、今回の地震の震源付近ではM5.0以上の地震が6回観測されている。最大は、1988年3月18日のM5.8(最大震度4)の地震である。(B)

近畿・中国・四国地方

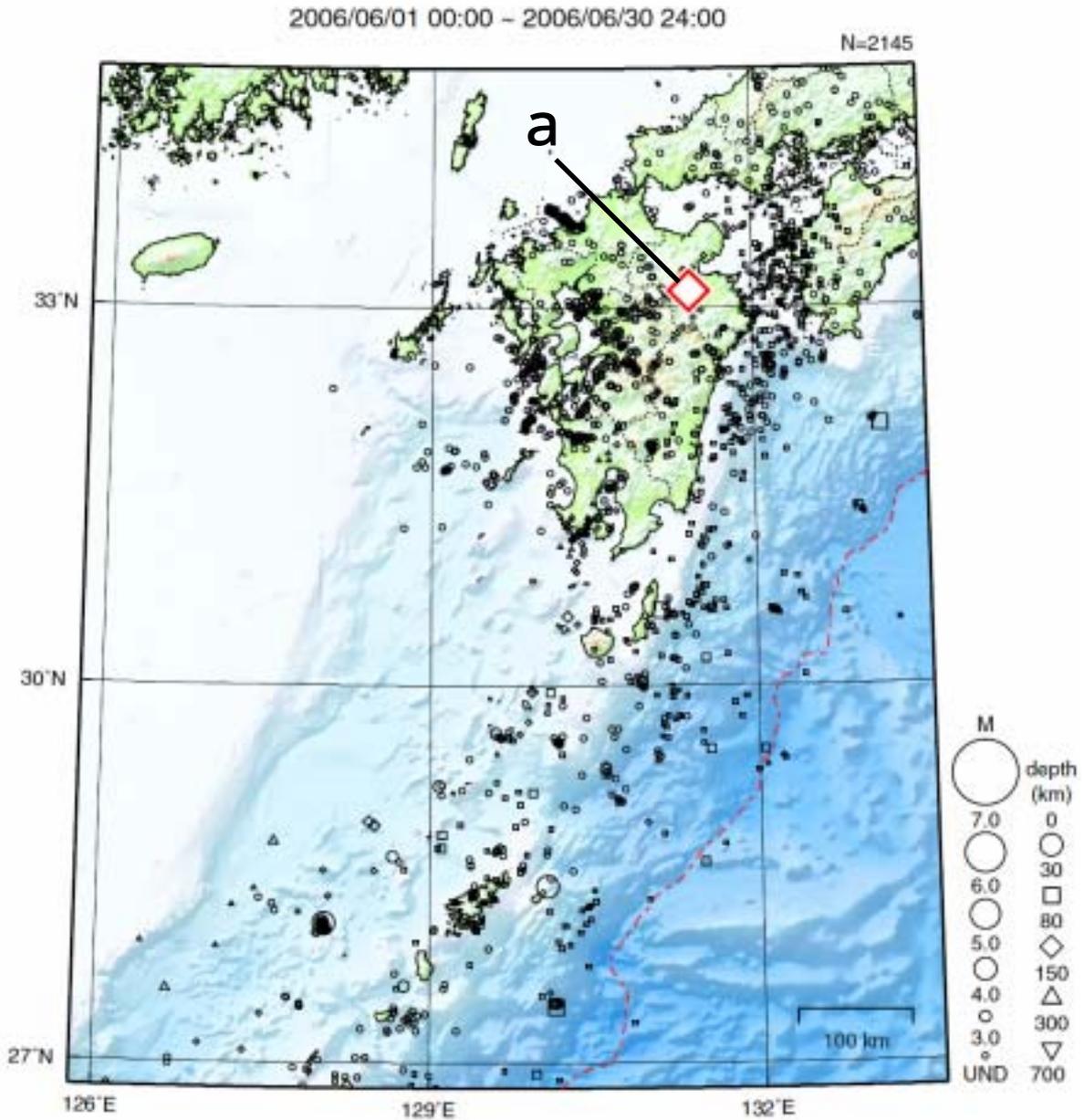


地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0 以上、陸域でM4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域でM5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

九州地方



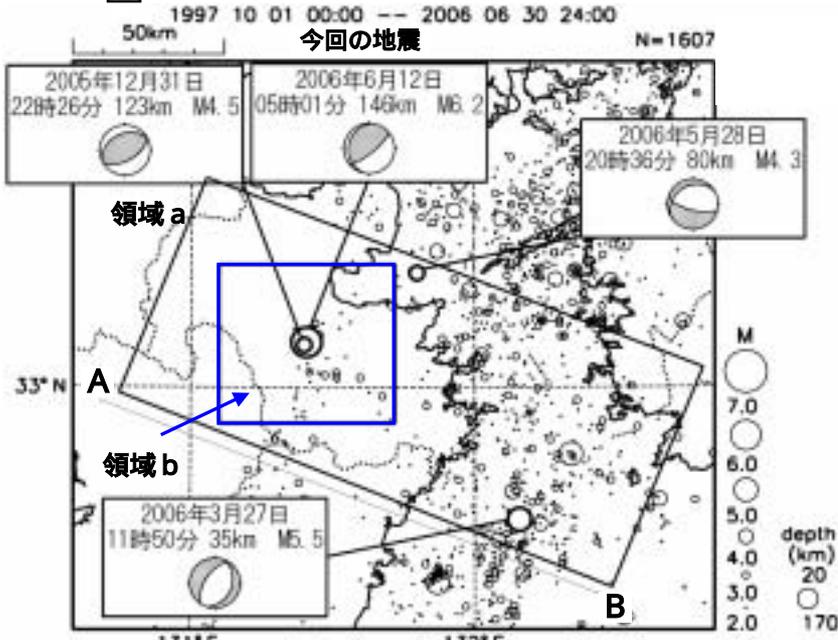
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

a) 6月12日に大分県中部で M6.2 (最大震度5弱) の地震があった。

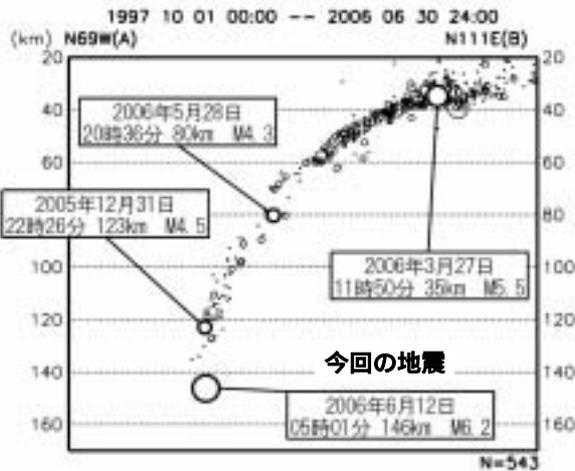
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

6月12日 大分県中部の地震

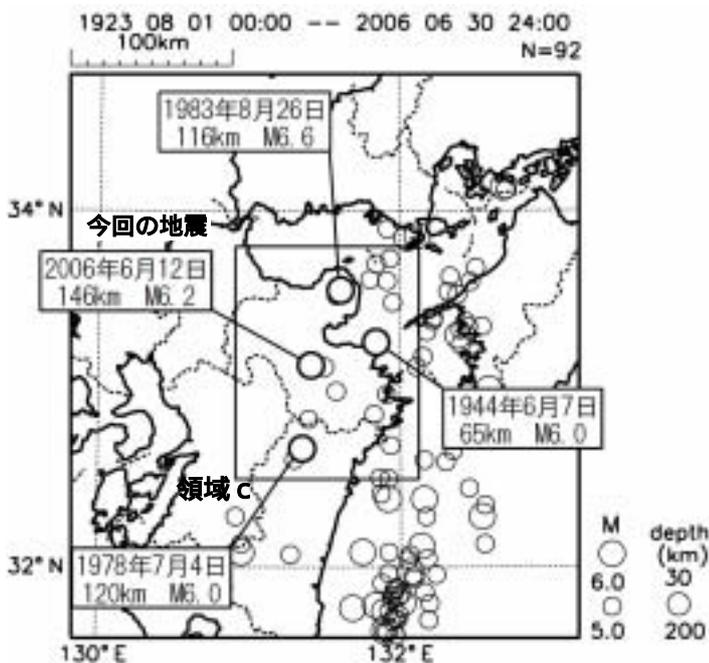
A 震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0、深さ20~170km)



領域a内の断面図 (A - B 投影)



B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0、深さ30~200km)

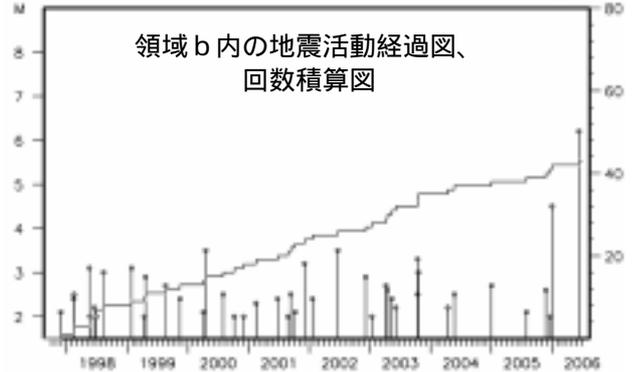


6月12日05時01分に大分県中部の深さ146kmでM6.2(最大震度5弱)の地震が発生した。発震機構は沈み込む方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部のやや深い場所で発生した地震である。余震活動は地震発生直後にM1クラスが4回観測されているのみである。今回の地震の震央付近では深さ90~130kmの範囲でM3~4程度の地震活動が時々見られるが、今回の地震はこの活動部分よりもやや深い場所で発生しており、この部分ではM6.0を超えるような地震はこれまで観測されていない。

この地震の南東側のフィリピン海プレートの浅い側では、2006年3月27日にM5.5の地震(最大震度5弱)が発生している。(A)

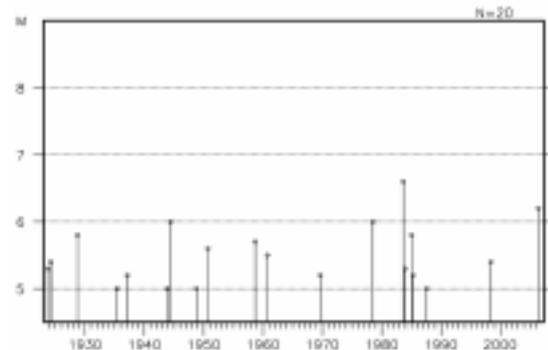
1997 10 01 00:00 -- 2006 06 30 24:00 N=4.3

領域b内の地震活動経過図、回数積算図



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震が発生した周辺のフィリピン海プレート内部ではM5.0を超える地震が数年に1回程度の割合で発生しているが、1983年8月26日のM6.6(最大震度4)以降、M6.0以上の地震は観測されていなかった。(B)

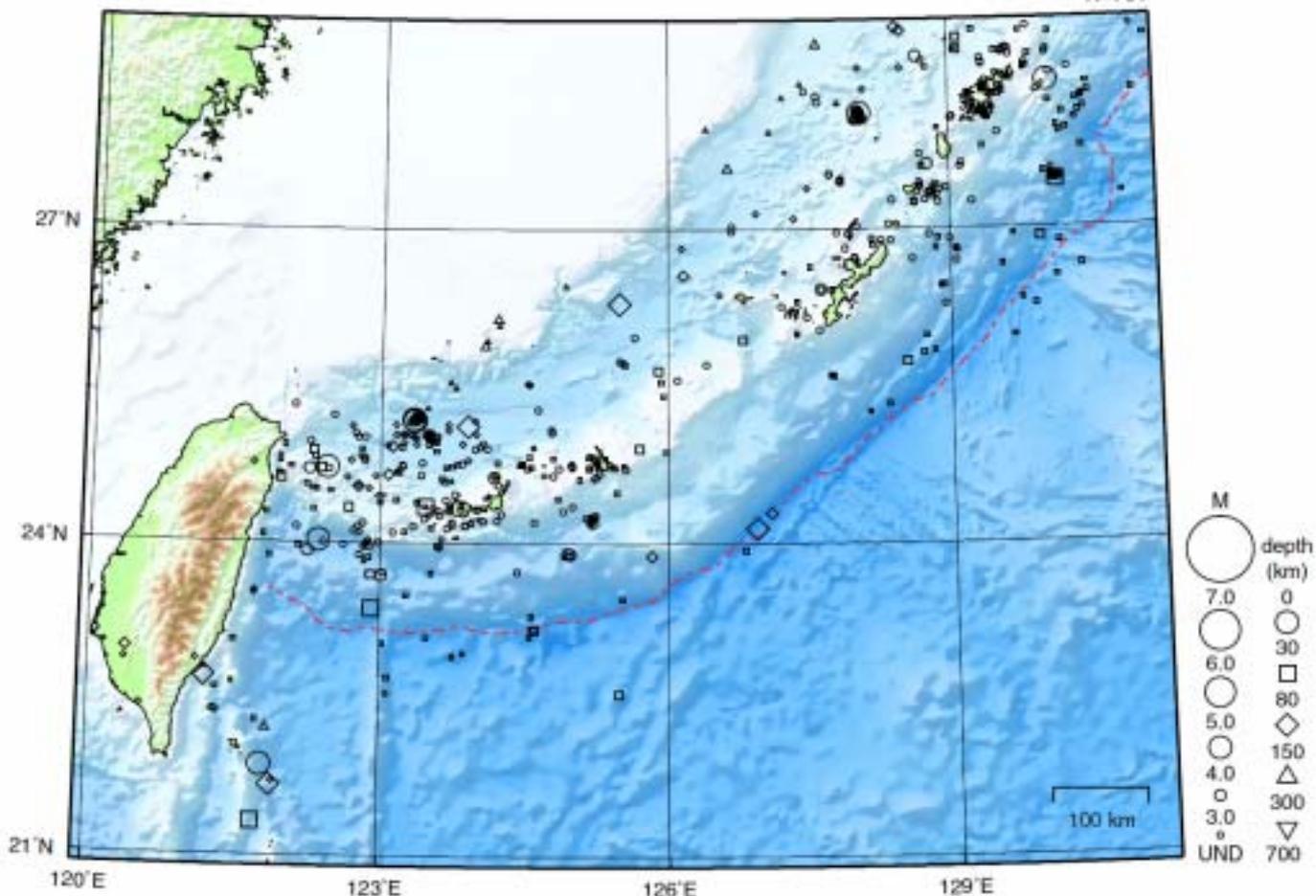
1923 08 01 00:00 -- 2006 06 30 24:00 N=20



沖縄地方

2006/06/01 00:00 ~ 2006/06/30 24:00

N=701



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

静岡県西部の地殻内で、M3.2とM3.1の地震が発生した(図1と図2)

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

6月26日に気象庁において第242回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した(図3~4)

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺における、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動は、最近では停滞しているように見えます。

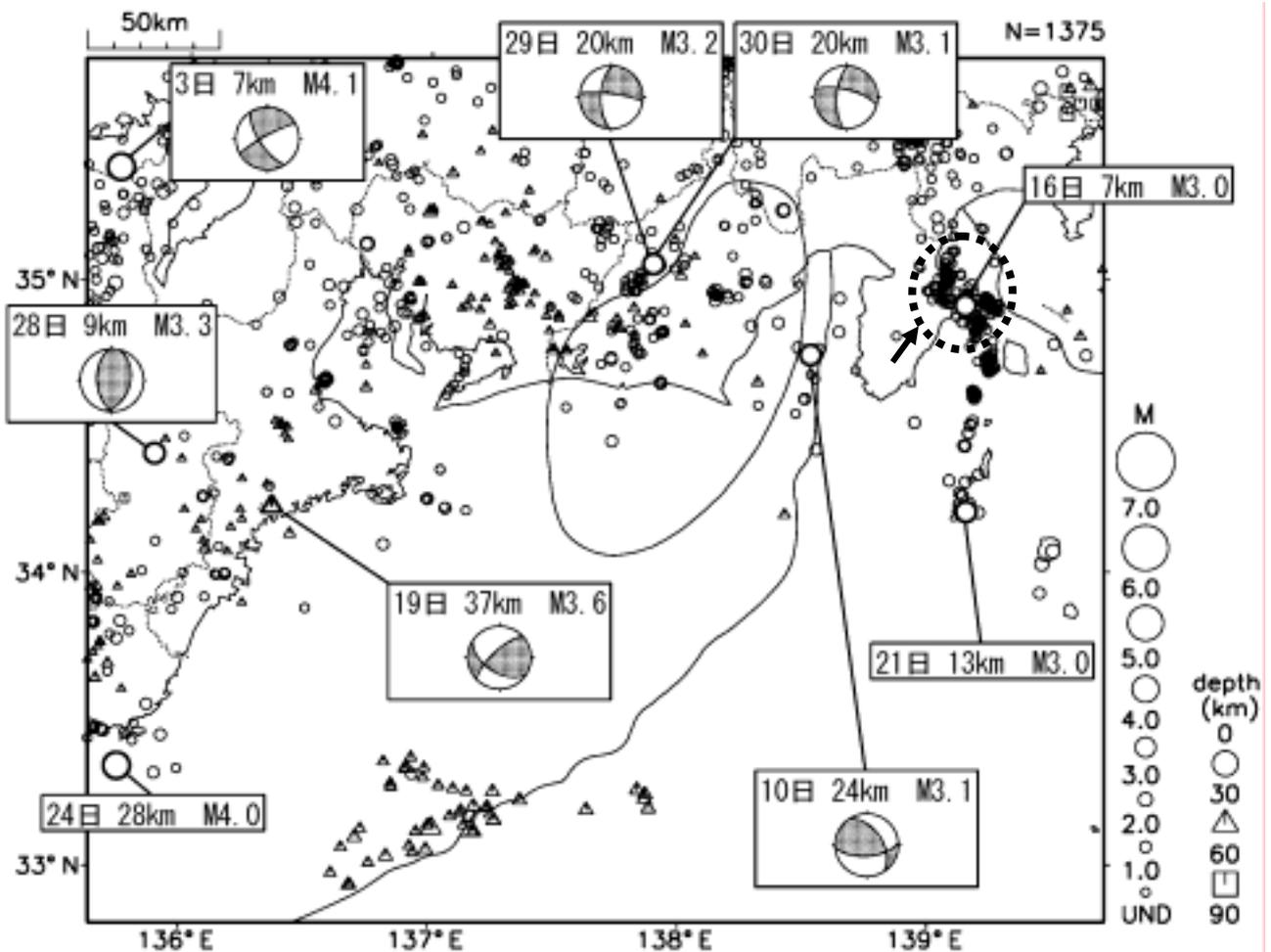


図1 震央分布図(2006年6月1日~30日:深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震(東海道沖はM4.0以上)に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構(下半球投影)。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。)

3日00時48分、福井県嶺南地方の深さ7kmでM4.1の地震があり、最大震度3を観測した。この地震の発震機構は東南東-西北西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。陸域の地殻内で発生した地震である。
10日01時05分、駿河湾の深さ24kmでM3.1の地震があり、最大震度2を観測した。この

地震の発震機構は北北東-南南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。フィリピン海プレート内部で発生した地震と考えられる。伊豆半島東方沖の地震活動は低調になりつつも継続しており、今月の最大は16日02時29分に深さ7kmで発生したM3.0の地震であった。

19日04時30分、三重県南部の深さ37kmでM3.6の地震があり、最大震度1を観測した。この地震の発震機構は東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。フィリピン海プレート内部で発生した地震である。

21日02時04分、新島・神津島近海の深さ13kmでM3.0の地震があり、最大震度1を観測した。

24日22時18分、紀伊半島沖の深さ28kmでM4.0の地震があり、最大震度2を観測した。フィリピン海プレート内部で発生した地震である。

28日21時04分、奈良県地方の深さ9kmでM3.3の地震があり、最大震度2を観測した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持

つ逆断層型であった。陸域の地殻内で発生した地震である。

29日21時31分と30日11時24分、静岡県西部の深さ20kmでM3.2とM3.1の地震があり、M3.2の地震では最大震度1を観測した。これらの地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。陸域の地殻内で発生した地震である。

注：本文中の番号は、図1中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図1, 2)と「固着域」(図3)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ除去」(図3, 4)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が3km以内、発生時間差が7日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

・東海地域の地震活動

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和53年(1978年)12月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。)として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成14年(2002年)4月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる174市町村(平成18年4月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード8クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度6弱以上(一部地域では震度5強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2006年6月21日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	6	4	4	0	2	1	2	5
短期地震回数 (平均)	10 (6.34)	5 (5.90)	4 (4.49)	4 (12.63)	0 (2.38)	1 (5.91)	1 (3.53)	7 (6.11)
中期活動指数	7	2	6	0	2	0	1	6
中期地震回数 (平均)	26 (19.03)	12 (17.69)	17 (13.46)	23 (37.90)	2 (4.76)	4 (11.82)	2 (7.06)	16 (12.22)

* Mしきい値：

M \geq 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M \geq 1.4：駿河湾

* クラスタ除去：

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$ ：固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$ ：駿河湾

* 対象期間：

短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

* 基準期間：

1997年—2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年—2000年（3年間）：浜名湖

1991年—2000年（10年間）：駿河湾

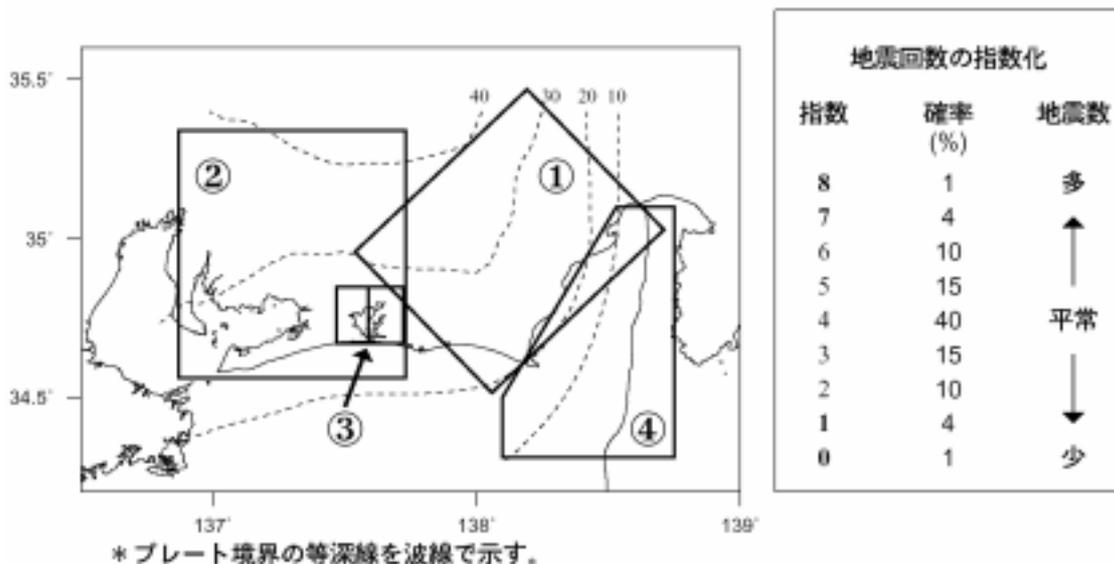
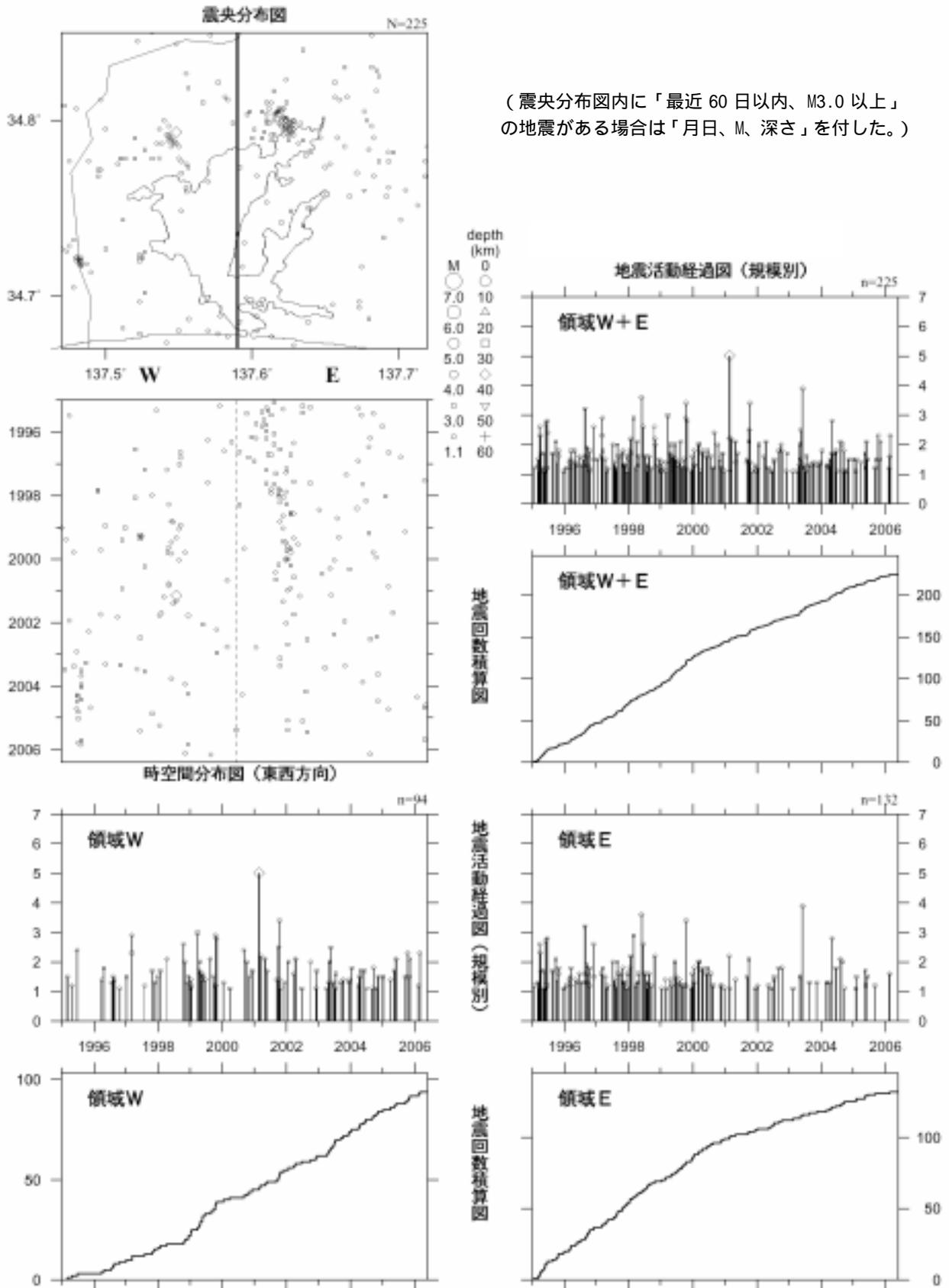


図3 東海地域の地震活動指数

浜名湖全域および東側は、活動指数の低い状態が継続している。愛知県のフィリピン海プレート内は、活動指数が低下した。それ以外の地域はほぼ平常の活動であった。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2006/ 5/24 M ≥ 1.1 *クラスタ除去したデータ



(震央分布図内に「最近 60 日以内、M3.0 以上」の地震がある場合は「月日、M、深さ」を付した。)

図4 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動
領域 E では 2000 年終わりごろからの活動の低下が継続している。

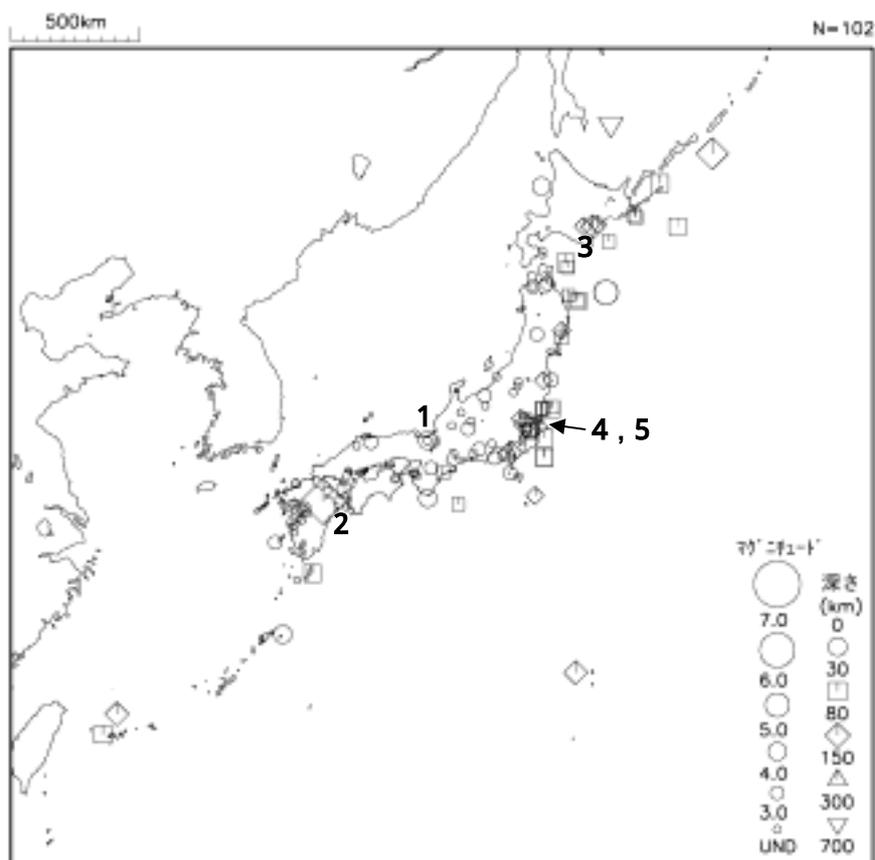


図1 2006年6月に震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

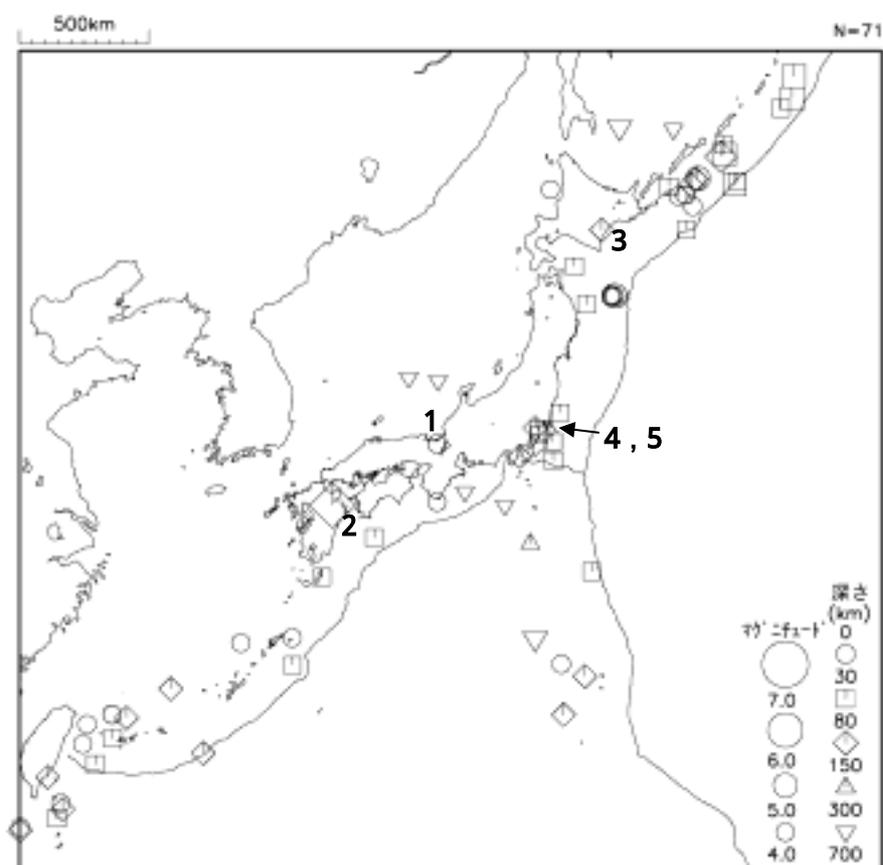


図2 2006年6月に発生したM4.0以上の地震
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

総数 : 9,522

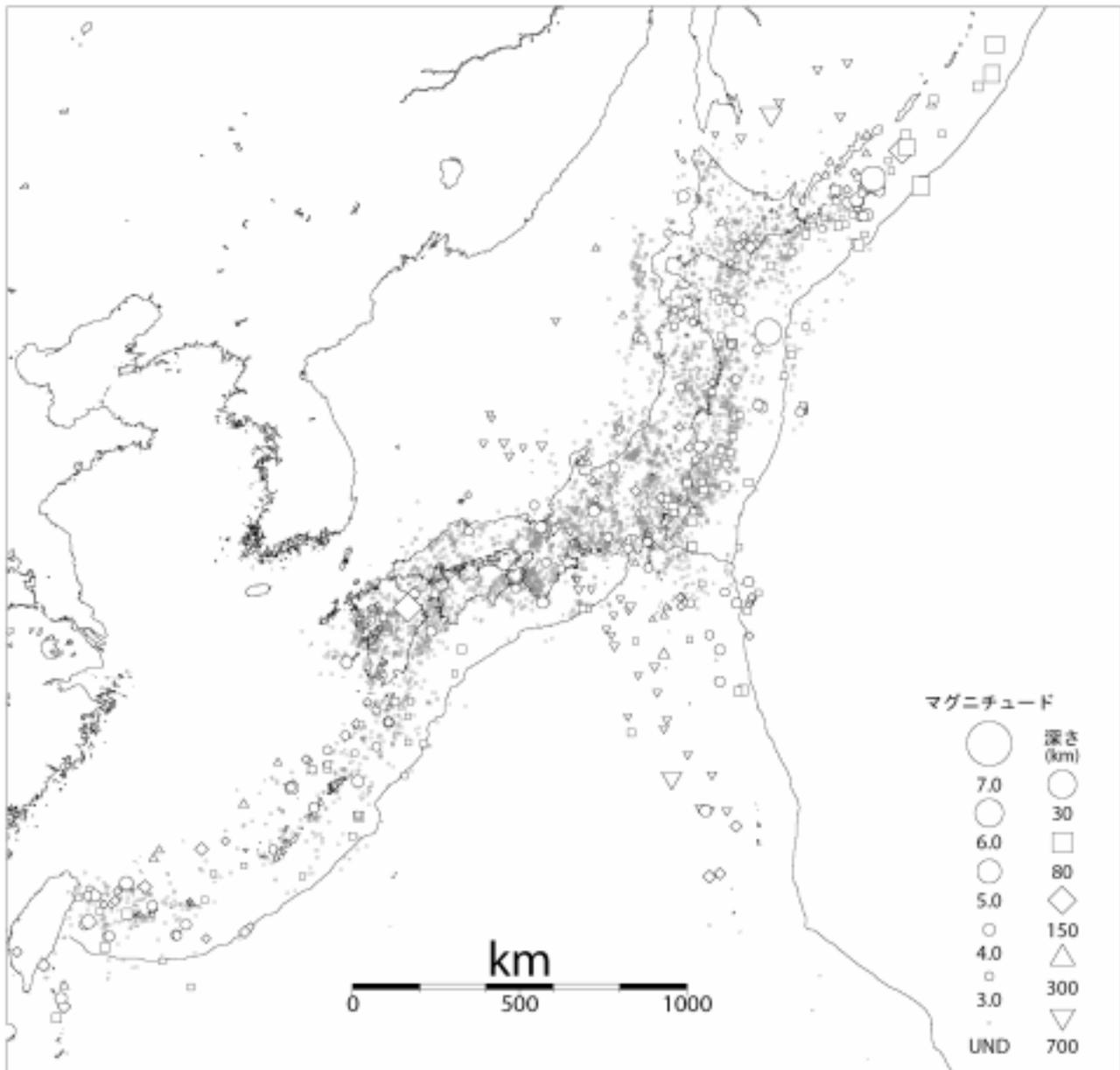


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2006年6月の地震の震央分布
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

表 1 . 過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
 <平成 17 年(2005 年) 6 月～平成 18 年(2006 年) 6 月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2006年 6 月	59	34	6	2	1					102	12日 大分県中部(震度 5 弱)
2006年 5 月	81	20	6	2						109	
2006年 4 月	89	47	22	3	1					162	30日 伊豆半島東方沖(震度 5 弱)
2006年 3 月	66	31	11		1					109	27日 日向灘(震度 5 弱)
2006年 2 月	44	30	3	4						81	
2006年 1 月	61	20	4	1						86	
2005年 12 月	58	28	10	3						99	
2005年 11 月	47	23	8	2						80	
2005年 10 月	57	24	7	2	1					91	19日 茨城県沖(震度 5 弱)
2005年 9 月	59	27	5	1						92	
2005年 8 月	89	29	8	1		1	1			129	16日 宮城県沖(震度 6 弱: 1 回、 震度 2: 3 回、震度 1: 11 回) 21日 新潟県中越地方(震度 5 強)
2005年 7 月	81	31	11	4		1				128	23日 千葉県北西部(震度 5 強)
2005年 6 月	81	44	8	3	2					138	3日 熊本県天草芦北地方(震度 5 弱) 20日 新潟県中越地方(震度 5 弱) 福岡県西方沖の地震の余震 (震度 2: 3 回、震度 1: 14 回)
2006年計	400	182	52	12	3					649	(平成 18 年 1 月～平成 18 年 6 月)
過去 1 年計	791	344	101	25	4	2	1			1268	(平成 17 年 7 月～平成 18 年 6 月)

注) 「記事」欄の「*」は関連の地震で震度 1 以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度 5 弱以上を観測した地震、または震度 1 以上を 10 回以上観測した地震活動について記載した。

地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成 9(1997)年 11 月 10 日 秋田県、埼玉県、横浜市(神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県

平成 10(1998)年 6 月 15 日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10 月 15 日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、宮崎県、鹿児島県

平成 11(1999)年 7 月 21 日 東京都、長野県

平成 12(2000)年 1 月 12 日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)

3 月 28 日 滋賀県

7 月 18 日 富山県、香川県、大分県

平成 13(2001)年 3 月 22 日 佐賀県 5 月 10 日 山梨県、川崎市(神奈川県)

7 月 19 日 高知県 12 月 12 日 福島県

平成 14(2002)年 3 月 20 日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)

7 月 29 日 北海道、長崎県

平成 15(2003)年 3 月 10 日 沖縄県

平成 16(2004)年 5 月 26 日 独立行政法人防災科学技術研究所

表 2 . 日本及びその周辺におけるマグニチュード (M)別の月別地震回数
 <平成 17 年 (2005 年) 6 月 ~ 平成 18 年 (2006 年) 6 月>

	M3.0 ~ M3.9	M4.0 ~ M4.9	M5.0 ~ M5.9	M6.0 ~ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2006年 6 月	268	60	10	1		339	71	12日：大分県中部 (M6.2)
2006年 5 月	242	52	4			298	56	
2006年 4 月	271	91	13	2		377	106	1日：台湾付近 (M6.4) 16日：台湾付近 (M6.0)
2006年 3 月	285	66	9	1		361	76	28日：東海道沖 (M6.0)
2006年 2 月	252	66	6	2		326	74	15日：マリアナ諸島近海 (M6.6) 17日：父島近海 (M6.0)
2006年 1 月	265	52	5			322	57	
2005年12月	363	81	11	3		458	95	2日：宮城県沖 (M6.6) 4日：奄美大島近海 (M6.1) 奄美大島近海の地震の余震 (M3.0~3.9: 45回、M4.0~4.9: 7回、 M5.0~5.9: 3回) 17日：宮城県沖 (M6.1) 三陸沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 64回、M4.0~4.9: 4回)
2005年11月	537	93	8	1	1	640	103	15日：三陸沖 (M7.2) 三陸沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 277回、M4.0~4.9: 27回) 22日：種子島近海 (M6.0)
2005年10月	309	67	8	4		388	79	15日：千島列島東方 (M6.4) 16日：与那国島近海 (M6.5) 19日：茨城県沖 (M6.3) 23日：日本海中部 (M6.1)
2005年 9 月	294	65	6	2		367	73	6日：台湾付近 (M6.0) 21日：国後島付近 (M6.0)
2005年 8 月	453	92	10	2	1	558	105	16日：宮城県沖 (M7.2) (M3.0~3.9: 38回、M4.0~4.9: 10回、 M5.0以上は本震の 1 回) 三陸沖の地震活動 (M3.0~3.9: 43回、M4.0~4.9: 13回、 M5.0~5.9: 2 回、M6.0~6.9: 2 回) 八丈島東方沖の地震活動 (M3.0~3.9: 94回、M4.0~4.9: 7 回、 M5.0~5.9: 1回)
2005年 7 月	378	98	15	1		492	114	23日：千葉県北西部 (M6.0) 八丈島東方沖の地震活動 (M3.0~3.9: 124回、M4.0~4.9: 40回、 M5.0~5.9: 6回)
2005年 6 月	271	75	9			355	84	
2006年計	1583	387	47	6		2023	440	(平成 18 年 1 月 ~ 平成 18 年 6 月)
過去 1 年計	3917	883	105	19	2	4926	1009	(平成 17 年 7 月 ~ 平成 18 年 6 月)

注)日本及びその周辺：原則、北緯20~49度、東経120~153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

世界の主な地震

6月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。



図1 2006年6月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布
 <震源要素は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

* : 数字は、表1の番号に対応する。

** : マグニチュードはmb(実体波マグニチュード)、Ms(表面波マグニチュード)のいずれか大きい値を用いて表示している。

表1 2006年6月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ(km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考(被害状況など)
1	06月03日16時15分	N26° 51.1' E 55° 54.0'		12	5.3	4.5		イラン南部	死者2名、負傷者4名
2	06月12日05時01分	N33° 08.0' E131° 24.4'		146		(6.2)		大分県西部	負傷者8名、住家被害5棟
3	06月13日23時15分	N40° 16.2' E 19° 57.6'		10	4.6			アルバニア	負傷者1名、住家被害12棟以上
4	06月14日13時18分	N51° 46.9' E177° 04.0'		14*	5.9	6.4	6.4	アリューシャン列島 ラット諸島	
5	06月21日01時52分	N33° 03.3' E104° 58.3'		18	5.1	4.6		中国、カンスー省	負傷者5名、住家被害25棟など

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2006年7月5日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード(Msの欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・震源の深さに「*」が付いているのは、USGSが推定した深さである。

火山性地震や火山ガスの放出量はやや多い状態が続いている。

三宅島 【やや活発な状況】

山頂火口の噴煙活動は引き続き活発で、二酸化硫黄の放出量も今期間に実施した観測では1日あたり1,000~2,600トンで推移しており、依然として多い状態が続いている。

福徳岡ノ場 【やや活発な状況】

4日に海上保安庁が、29日に海上自衛隊が上空から行った観測で、付近の海面に火山活動によるとみられる変色水が確認された。

阿蘇山 【やや活発な状況(レベル2)】

中岳第一火口では湯だまりの表面温度が70前後で経過し、小規模な土砂噴出も観測されるなど、熱活動はやや活発な状態が続いている。

薩摩硫黄島 【やや活発な状況(レベル2)】

噴煙活動はやや活発な状態が続いている。下旬には、火山性地震がやや多い状態となった。

口永良部島 【やや活発な状況(レベル2)】

火山性地震はやや多い状態が続いている。

【静穏な状況であったが、観測データに変化がみられた火山】

伊豆大島 【静穏な状況(レベル1)】

6~8日に西方海域で地震が一時的に多発した。

【静穏な状況であった火山】

(北海道地方)

恵庭岳、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山、渡島大島

(東北地方)

岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山(レベル1)、安達太良山、磐梯山

(関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島)

那須岳、草津白根山(レベル1)、新潟焼山、御嶽山、白山、富士山、伊豆東部火山群、八丈島

(九州地方)

九重山(レベル1)、雲仙岳(レベル1)、霧島山(新燃岳)(レベル1)、霧島山(御鉢)(レベル1)

(沖縄地方)

硫黄島

過去1年間の火山活動の状況

火 山 名	平成17年						平成18年					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
雌阿寒岳	活動											
十勝岳	活動											
樽前山	活動											
吾妻山	活動 レベル											
草津白根山	活動 レベル											
浅間山	活動 レベル											
伊豆大島	活動 レベル											
三宅島	活動											
福德岡ノ場	活動											
九重山	活動 レベル											
阿蘇山	活動 レベル											
雲仙岳	活動 レベル											
霧島山(新燃岳)	活動 レベル											
霧島山(御鉢)	活動 レベル											
桜島	活動 レベル											
薩摩硫黄島	活動 レベル											
口永良部島	活動 レベル											
諏訪之瀬島	活動 レベル											

活動状況(活動)

- ：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山

火山活動度レベル

- ：小規模な噴火が発生かその可能性
(吾妻山、草津白根山、浅間山、雲仙岳では「小～中規模噴火が発生かその可能性」)
(桜島では、「活発な火山活動」)
- ：やや活発な火山活動
(桜島については、「比較的静穏な噴火活動」)
- ：静穏な火山活動

平成 18 年 6 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
雌阿寒岳	火山観測情報第 32 号	5 日 16:00	活発な火山活動が継続。5 月 29 日～6 月 5 日 15 時の活動状況。
	火山観測情報第 33 号	12 日 18:35	火山噴火予知連絡会での評価。活発な状態からやや活発な状態に引き下げ。定期的な発表は本号をもって終了。
浅間山	火山観測情報第 22 号	2 日 16:00	5 月 26 日～6 月 2 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 23 号	9 日 16:00	2 日～9 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 24 号	16 日 16:00	9 日～16 日 15 時の活動状況。15 日に行ったガス観測の結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 25 号	23 日 16:00	16 日～23 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 26 号	30 日 16:00	23 日～30 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
三宅島	火山観測情報 第 152～181 号 (1 日 1 回発表)	1 日～30 日 16:30	最近の火山活動評価、前日 16 時～当日 16 時の活動状況及び上空の風の予想。
桜島	火山観測情報第 1 号	4 日 17:40	4 日 16 時頃、昭和火口付近で噴煙を確認。レベルは 2。
	火山観測情報第 2 号	5 日 17:20	4 日の噴火のその後の経過。5 日に行った現地観測および上空からの観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 3 号	7 日 18:50	7 日 17 時 30 分頃に発生した噴火の状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 4 号	9 日 16:10	9 日の昭和火口付近の噴火の状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 5 号	9 日 21:20	9 日 18 時 26 分と 19 時 45 分に桜島の昭和火口付近で小規模な噴火が発生。レベルは 2。
	臨時火山情報第 1 号	12 日 18:35	火山噴火予知連絡会での評価。桜島の昭和火口付近の噴火活動が活発化し、今後、従来の南岳山頂火口で発生していた噴火と同じような噴火が発生する可能性が高い。レベルを 2 から 3 に引き上げ。
	火山観測情報 第 6～16 号 (1 日 1 回発表)	13 日 17:00 14 日 17:00 15 日 16:40 16 日 15:40 17 日～19 日 15:30 20 日 15:35 21 日 16:00 22 日 15:30 23 日 16:00	活発な火山活動が継続。前日 15 時～当日 15 時の状況、防災上の注意事項及び上空の風の予想。レベルは 3。
	火山観測情報第 17 号	26 日 15:30	活発な火山活動が継続。23 日～26 日 15 時の状況、防災上の注意事項。レベルは 3。
	火山観測情報第 18 号	30 日 15:45	活発な火山活動が継続。26 日～30 日 15 時の状況、防災上の注意事項。レベルは 3。

